

2026 9月

鷹栖町図書室に新しく入った本

(8月分より)

たかす(一般)

『カフェ保健室』(吉野万理子／ポプラ社)

『警察へ行こう』(真保裕一／講談社)

『海のほとりのプラネット』(義井優／新潮社)

『女じまい』(阿川佐和子／中央公論新社)

『プラネット・ダイアリー』(マリー＝ヘレン・バルティノー／集英社)

『発達が気になる子の接し方・教え方BOOK』(飯干真／成美堂出版)

『ままならない部屋に、住んでいる』(横道誠／学芸出版社)

『評伝福居良』(栗山慎二／リットーミュージック)

『一生遊べる定番ボードゲーム50』(坂本犬之介／新紀元社)

☆新しく入った本は他にもございます。
図書室では新着図書のリストを配布しております。また、鷹栖町図書室の蔵書検索から探すこともできます。



『ホルモー燦燦』(万城目学／KADOKAWA)

『天保釣り合戦顛末記』(土橋章宏／小学館)

『夜の恩寵』(三浦しをん／集英社)

『ちょっとだけエスパー』(野木亜紀子／河出書房新社)

『檻の中のルフィ』(栗田シメイ／講談社)

『がんが消えていく最強のレシピ』(済陽高穂／ブティック社)

『からだの厚みを薄くする』(土屋元明／サンマーク出版)

たかす(児童)

『おにぎりをおかあさんに』(河原和音／KADOKAWA)

『いらいっしょおまつりだ!』(山本祐司／ほる出版)

『ようかいのもり はなたかしようてん』(長谷川あかり／大日本図書)

『あわてるな!みずはこわいぞあぶないぞ!』(石塚ワカメ／岩崎書店)

『ひまわり食堂の忘れ物』(西村友里／くもん出版)

『AIMの研究』(栗田佳織／Gakken)

『恐竜トリケラトプスふぶきのたたかい』(黒川みつひろ／小峰書店)

『ごくらくからてがみがとどきました』(西村繁男／教育画劇)

『ポタッポタ』(アーロン・ランデル／Gakken)

『救命救急センターのいちにち』(にしださとこ／少年写真新聞社)

『おれのなまえはイッパイアッテナ』(斉藤洋／講談社)

『うごく』(真貝寿明 指導／フレーベル館)

きたの(一般)

『おはなしの時子』(朝比奈あすか／双葉社)

『たぶん、恋しい』(一穂ミチ／新潮社)

『もう怖いのは締め切りだけ』(村井理子／大和書房)

『兵庫県知事問題失敗の本質』(小林和樹／筑摩書房)

『ニセコ誕生物語』(読売新聞北海道支社／中央公論新社)

『葵の紋を継ぎまして。』(山岸美喜／KADOKAWA)

『かぎ針で編む花束ブランケット』(日本文芸社 編／日本文芸社)

『おとなりさんなんて怖くない』(田中兆子／光文社)

『神の代役』(乾ルカ／ポプラ社)

『はい、移民です。文句あるかい?』(マイク・モラスキー／光文社)

『入れ歯の話をしませんか?』(澤口正俊／文芸社)

『きょうもマリネ』(坂田阿希子／家の光協会)

『農薬の疑問50』(日本農薬学会 編／成山堂書店)

『流行歌に唄われた花物語』(合田道人／笠間書院)

きたの(児童)

『ぼくたちは、あらそうために生きるのか?』

(あべ弘士／偕成社)

『こんちゅうサッカー』(じゅえき太郎／Gakken)

『しかたなし日記』(市川宣子／童心社)

『学校のふしぎ図鑑』(小学校教師八チ 監修／ナツメ社)

『やまゆり』(たてのひろし／小峰書店)

『いしにさくはな』(中野真典／あかね書房)

『ロボット、被災地へ行く』

(中松まるは／あかね書房)

ほか

～鷹栖町図書室の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています～

図書室だより

シアターとんとんとんと
けいこお姉さんがたかすにやってくる!

道内各地で公演を行っているシアターとんとんとんと、けいこお姉さんがやってきます!
人形劇やパネルシアター、腹話術など、楽しいステージをお楽しみください!

【日時】9月13日(日)10時30分から

(開場は10時15分から)

【場所】鷹栖町図書室おはなしのへや

【参加費】無料



8月の本棚リレーは
菱山雅子さんでした。



8月の音楽のある図書室は
やまちゃんさんによる
ソロギターでした。

